

令和5年度

NARA ARTS BRIDGE for Youth

事業報告書

令和5年7月～令和6年1月

奈良市 文化振興課

目次

NARA ARTS BRIDGE for Youth について	1
国内プログラム	
事前ワークショップ、ガイダンス	3
奈良市日中韓交流プログラム	8
海外渡航プログラム	
濟州特別自治道渡航プログラム	13
参加者レポート	18
中国寧波市渡航プログラム	21
参加者レポート	27
活動の成果	
成果報告会（国内プログラム）	31
令和5年度事業 成果と課題	32

NARA ARTS BRIDGE for Youthについて

■ NARA ARTS BRIDGE for Youth

「NARA ARTS BRIDGE for Youth」は、2016年の東アジア文化都市における日中韓交流事業の成果を未来へと繋いでいくため、大学生や高校生等を対象とした国際文化交流プログラムである。

平成29年度から実施しており、奈良市内でさまざまな分野についての学びを深めるプログラム、中韓から大学生や高校生等を招き交流を行う日中韓交流プログラム、さらに現地に渡って学生たちと交流を行う海外渡航プログラムを行っている。

昨年度まで「東アジア文化創造 NARA クラス」として実施していた青少年国際交流プログラムを今年は装いも新たに「NARA ARTS BRIDGE」として実施した。

■ 令和5年度テーマ「音楽」

今年度は「音楽」をテーマに各プログラムを実施した。「音楽」は国境を越えて人々を結びつけ、共通の喜びや感情を共有する手段となる。人々をつなげ、文化的な架け橋となる力を持つ音楽を通じた活動が、東アジアのより豊かで平和な未来につながると考え、企画を行った。奈良市の音楽指導者としてシンガーソングライターで奈良市観光大使の氷置晋氏を招き、プログラムを進めた。

東アジア文化都市 2016 奈良市

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして、東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成。

「交流事業」では、パートナー都市である、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とさまざまな分野において文化交流を行った。

参加者募集・選考について

募集期間：令和5年5月29日（月）～6月26日（月）

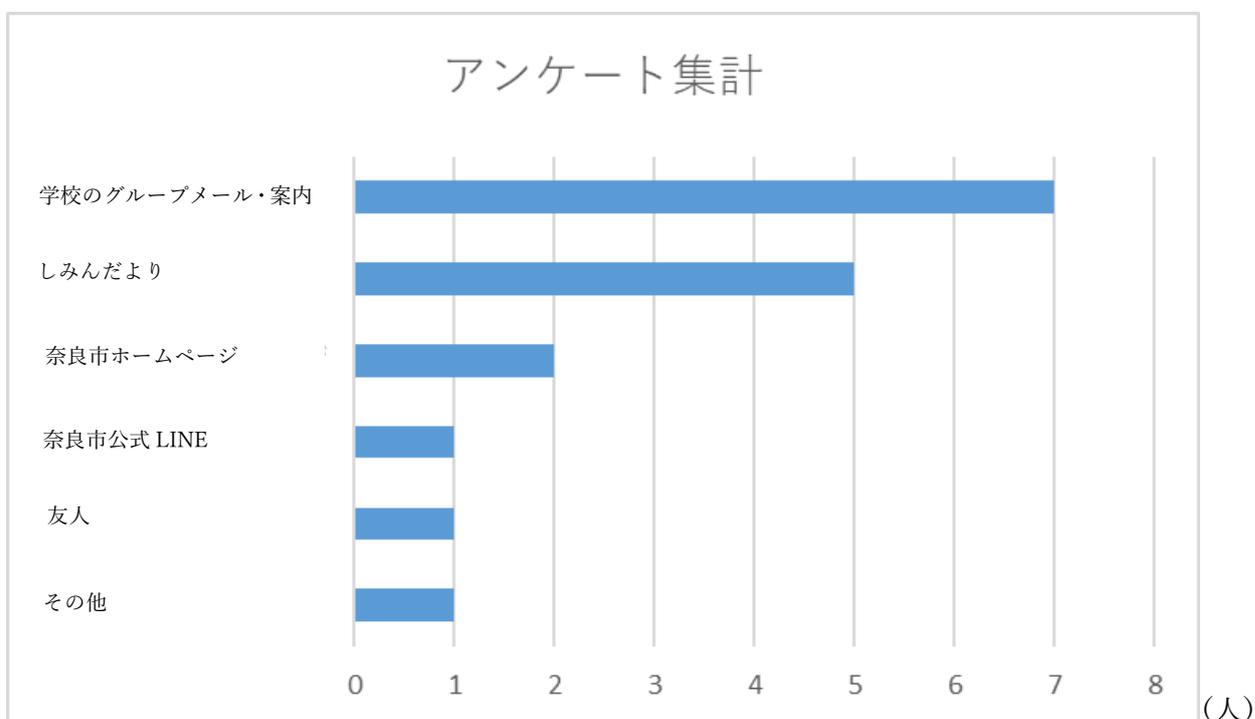
○応募者 (人)

結果	高校生	大学生	社会人	合計
選考通過	8	8	1	17
落選・辞退	8	17	0	25
合計	16	25	1	42

○参加者 (人)

結果	高校生	大学生	社会人	合計
寧波渡航プログラム	3	4	0	7
済州渡航プログラム	4	3	0	7
奈良市プログラムのみ	1	1	1	3
合計	8	8	1	17

プログラムを知ったきっかけ



国内プログラム

第1回国内プログラム ガイダンス&ワークショップ

日時：令和5年7月15日（土） 10:00～16:00

場所：音声館 プレイルーム

講師：氷置 晋 氏（奈良ミュージックデザイン）

菊池 雅千絵 氏（生田流 正派 生涯学習音楽指導員 大師範）

出席者：NARA ARTS BRIDGE for Youth 16人（1人欠席）

内容

<午前>

事務局よりプログラムについての詳しい説明を行った後、過去のプログラムに参加経験のある企画運営ボランティアより中韓パートナー都市の紹介をクイズも交えながら行い、過去のプログラムの様子も紹介した。

次に、参加者の自己紹介を行った。参加者それぞれが名前と年齢を言った後に、今年度のテーマである音楽に合わせて、好きな音楽やアーティストなども交えながら行った。次に、アイスブレイクとして、名前リングとワードウルフを行った。二つのゲームを行いながら、参加者同士のコミュニケーションが増え、最後には緊張が解けた様子で、笑顔も沢山みられた。

奈良市交流プログラムでは、参加者が企画と準備をする時間を設けている。1つが「歓迎セレモニー」で、交流1日目に来日した参加者を迎えるセレモニーである。2つ目が「レクリエーション」で、交流1日目の夜に宿泊場所であるユースホテルで親睦を深めるためのゲーム等行う時間を設けている。この2つを準備するチームをそれぞれ歓迎セレモニーチームとレクリエーションチームと名付け、各チームがどのようなことを行うのかを簡単に説明し、チーム分けをした。次回までの課題として、それぞれがどのようなことを行いたいかをシートにまとめてきてもらうことにした。

<午後>

今年度の国際交流プログラムにおける事前ワークショップ講師、3都市交流プログラムでの指導等担当していただく氷置晋氏から日中韓3か国で作成するオリジナル曲のサビのメロディーの候補曲を披露していただいた後、参加者で曲を選んだ。歌だけでなく、参加者の得意な楽器や特技でも参加することとなった。

次に、菊池雅千絵氏の箏体験授業を行った。箏の歴史を説明していただいた後、箏の練習曲として有名な「さくら」を教わり、練習の成果を奈良市交流プログラム内の中韓の歓迎セレモニーで披露する予定だ。

【実施後アンケート】

- ・ 初対面の方々と一緒に考えて交流するということが最初は不安や緊張を感じていたが、レクリエーションで緊張がほぐれ参加者の皆さんと仲を深めることができうれしかった。
参加者の方と話すことで、自分の知らない知識や、いろいろな考え方を知ることができたので楽しかった。
箏の体験では、菊池先生の分かりやすい指導により短時間でも演奏できるようになったので、とても達成感があった。
また、合奏する際に一体感があり、音楽の楽しさ面白さを感じた。
- ・ 初の顔合わせで緊張していたが、アイスブレイクで皆さんのことが知れたので安心した。曲を作る工程に参加するのは初めてなので、氷置先生が音源を聞かせて下さった時は「ここから曲が出来ていくのか。」と感動した。
箏に触れるのは久しぶりだったが、いつも一人で弾いていたので他の人と一緒に弾けるのが楽しくて、本番までにしっかり練習しようと思った。
- ・ 箏の体験をする中で、感情を表すように強弱をつけることが大事だと学んだ。
今回参加して、様々な年代の人がいるので学校ではできない経験ができ、コミュニケーション能力も上がりそうだと感じた。また、中高一貫の学校に通っているため、新しい友達作り方を忘れていたが、新しい友達ができうれしかった。
- ・ 箏の経験や知識が無くはじめは不安だったが、弾いてみるととても楽しく体験することができたので、この魅力を多くの人に知ってもらいたいと思った。
奈良に住んでいてもまだまだ知らない文化があるので、このプログラムを通じて知見を広めたい。



第2回国内プログラム

日時：令和5年7月29日（土） 9：00～16：30

場所：奈良市中部公民館 視聴覚室

講師：氷置 晋 氏（奈良ミュージックデザイン）

出席者：NARA ARTS BRIDGE for Youth 16人（1人欠席）

内容

<午前>

奈良市交流プログラムの準備の話し合いと歌詞作成をした。

準備では、歓迎セレモニーチームとレクリエーションチームに分かれて話し合いをした。各チームとも、話し合いで出た準備物の準備と他に何が必要なのかを考えてくることを課題とした。

歌詞作成では、プログラム内で歌う曲の歌詞を作成した。話し合いの中で出た20個ほどのキーワードから歌詞が完成した。

<午後>

奈良市交流プログラムで披露予定の「let it be」と「世界に一つだけの花」を練習し、8月の濟州特別自治道渡航プログラムでの発表曲は「世界に一つだけの花」に決めた。

その後、濟州特別自治道渡航プログラム参加者に向けた説明会を行った。



【実施後アンケート】

- ・ 今回は前回より参加者で意見を出し合う機会が多く、新鮮だった。午後からの作詞作業は初めてのことで不安だったが、氷置先生が手順を簡単にしてくださったおかげで、楽しく取り組めた。
音楽の知識が豊富な参加者の方に刺激を受けた。
- ・ 歓迎セレモニーについてチームで話し合い、内容や仕事の割り振りをする事でチームの団結力が高まったように感じた。音楽について学んでいるので、歌作りではたくさん意見を出せた。以前から作詞作曲に興味があったが、今回の経験でより作詞作曲に対する気持ちが高まった。「コロナ禍から希望の未来へ」という今にふさわしく、どの国でも共感できる曲を作成できたので、発表が楽しみ。
配布された楽譜は音楽経験がない人にとって難しすぎたことと、歌う時の参加者の声が小さかったことが残念だった。今回の交流のテーマは「音楽」なので音楽を楽しみながら全員が大きな声で参加できればもっと楽しめると思った。
- ・ 氷置氏のワークショップで行った作詞作曲はとても難しかった。曲に入れるフレーズを考えたりメロディーを考えたり、今まで経験したことのないものばかりであり発言することが出来なかった。
しかし、他の方の意見や氷置氏のお話を聞いて、勉強になった。
そして、今回のワークショップを通して音楽を一から作り上げていくということがこんなにも難しく楽しいものなんだと知ることができていい経験にもなった。
本番までの全員での練習時間がほとんどないので、自宅でもしっかりと練習をし堂々と歌えるようになりたい。
- ・ 先生の音源を聞いたうえで、作詞するだけであると考えていたが、それに加えてAメロの作曲などをするのも初めてで不安ではあったが、帰りにはつい口ずさむ程、気に入った歌になってよかった。
作詞をするとき、意見を言いすぎてしまっていないか、少し不安ではあった。しかし、どのメンバーの発言にも反対するような意見はなく、とても話しやすかった。
- ・ 作詞や作曲をしたことがなかったので、どのように作詞作曲が行われていくかを知れて、大変面白かった。メロディーから曲を作っていく方法や、詞から作っていく方法など、様々な発想方法があった。また、他の参加者とどのように関わっていけばいいのか少し不安に思いながら参加したが、どの方も積極的によかった。また、どの方も一人一人得意なことが面白く、刺激になった。

第3回国内プログラム

日時：令和5年10月14日（土） 9：30～17：00

場所：奈良市中部公民館 視聴覚室

講師：氷置 晋 氏（奈良ミュージックデザイン）

出席者：NARA ARTS BRIDGE for Youth 14人（3人欠席）

内容

<午前>

奈良市での交流プログラムでは交流の成果発表会を設けているため、参加者をA～Cの3グループに分けて発表内容の相談を行った。

Aチームはマリーゴールド、Bチームはハナミズキ、CチームはA Whole new worldを発表することが決まった。

その後、氷置氏と日本の参加者が作成したオリジナル曲、「Color of the ocean」を練習。

<午後>

「let it be」、「世界に一つだけの花」を練習し、振り返りを行った。

その後、中国渡航プログラム参加者に向けたガイダンスを行い、奈良市での交流プログラムの準備を行った。

【実施後アンケート】

- ・ プログラムを重ねるごとに参加者同士仲良くなり、有意義に時間を使えるようになってきていると感じています。11月の交流まで時間が少なくなってきたので、しっかり準備して備えたいと思います。
- ・ 今回はグループに分かれて話し合うことが多かったのですが、まだあまり話していなかった方と沢山お話しできて、親交をより深めることが出来たと思います。自分の意見を伝えるのが少し苦手で人見知りもあったのですが、いざ話してみると皆さんしっかり聞いてくださったので、とても話しやすかったです。
- ・ 韓国に行った人の話を聞いて、冬の中国渡航がとても楽しみになり、韓国の方にとってもよくしてもらったと聞いたので、奈良に受け入れのときにはこちらも沢山喜ばせたいと、準備により気合が入った。次回は韓国の方と実際にお会いするので、万全に準備したい。
- ・ グループ発表に関して、韓国渡航時のプログラムよりも時間がないので、その中でどのように韓国の学生に楽しんでもらうかが重要だと感じた。日本人学生側で準備しすぎて「一緒に取り組んでいる感」がなくなるし、何も決まっていない状態で当日を迎えても困るので、その加減をグループメンバーと意見交換しながら調整していきたい。

奈良市日中韓交流プログラム

日時：令和5年11月18日（土）19日（日）

場所：奈良市音声館、奈良ユースホステル、ミ・ナーラ

講師：氷置 晋 氏（奈良ミュージックデザイン）

菊池 雅千絵 氏（生田流 正派 生涯学習音楽指導員 大師範）

出席者：奈良市 17人（参加者）2人（指導者）

濟州特別自治道 8人（参加者）2人（指導者・通訳）

内容：日韓参加者による国際文化交流プログラム

交流1日目／11月18日

<午前>

濟州特別自治道の参加者は春日大社を散策し、奈良市の参加者は音声館で箏の発表の練習を行った。

歓迎セレモニー（進行は英語、説明等は通訳あり）

音声館ホールにて、濟州道の参加者10名を大きな拍手で迎えた。歓迎セレモニーチームが司会進行を行った。

最初に、仲川げん奈良市長からこれから交流を行う日韓の参加者に向けて言葉が贈られた。各都市代表者も2日間の意気込みを述べた。濟州特別自治道の参加者は、日本語で挨拶を行った。

集合写真撮影の後、日中韓3か国で共通する伝統楽器である箏の発表を奈良市の参加者が行った。（発表曲は「さくら」）

練習時間は短かったが、自主的に学校や家で練習をした参加者もいたので、日本らしさが伝わる素晴らしい演奏であった。

その後の各都市自己紹介（参加者と各都市指導者）は、濟州特別自治道から紹介動画と共に自己紹介を行った。奈良市の参加者も、自分の趣味や、好きなことをパワーポイントで1人1枚作成し、英語で自己紹介をしていた。今回参加予定だった寧波市からのメッセージビデオを流した。濟州特別自治道での交流の様子や、12月のプログラムで会えることを楽しみにしているというメッセージをいただいた。

歓迎セレモニー終了後、アイスブレイクとして親睦を深めるためのゲームを行った。餃子ゲームと1分タイムセンスというゲームで、前者はじゃんけんを行い、グー＝肉 チョキ＝ニラ パー＝餃子の皮と見立てて3つ揃うと餃子ができるゲームだ。3人1組でゲームを行い、餃子の個数を競った。制限時間の声が聞こえなくなるほど盛り上がっていた。後者は、

目をつぶって1分と思ったタイミングで立ち、一番1分に近い人が勝利というゲームだ。2つのゲームで参加者の緊張もほぐれ、打ち解けた様子だった。



箏体験授業

菊池 雅千絵先生(生田流 正派 生涯学習音楽指導員 大師範)による箏の体験授業を行った。奈良市の参加者が濟州特別自治道の参加者をサポートしながら体験授業を進めた。箏の弾き方を参加者同士で教え合いながら交流を深めている様子で、予定していた時間よりも早く曲をマスターすることができた。濟州特別自治道の参加者向けの楽譜を用意していたが、奈良市の参加者が披露した難しい方の楽譜の冒頭まで体験授業で進めることができた。

音楽を通して言葉を越えた交流が出来ており、体験授業が終わる頃には前からの友人のように参加者同士は打ち解けていた。



<午後>

ならまち散策

A・B・Cの3チームで、ならまち散策をしながら写真スポットに行き、配布した資料と同じ画角で写真を撮るゲームを行った。写真を探しながら、自由にならまちを散策し、奈良の歴史ある街並みを濟州道の参加者に楽しんでもらうプログラムだ。散策時間は2時間設けていたので、ならまちにとどまらず奈良公園まで足を運んだチームもあった。



グループワーク

事前に奈良市の参加者で決めた曲の役割決めや、立ち位置などを相談した。Aチームはマリーゴールド／あいみょん、Bチームはハナミズキ／一青窈、Cチームは A Whole New World／ティム・ライス アラン・メンケンを発表。相談の後は、実際に楽器を含めて練習を進めた。参加者の演奏技術は非常に高く即興で、演奏をしていた。



歓迎夕食会

オランダ屋で歓迎夕食会を行った。奈良市文化振興課長より挨拶の後夕食会開始。



レクリエーション

日韓参加者は奈良ユースホステルで1泊するので、奈良ユースホステルのホールで、レクリエーションを行った。司会・進行はレクリエーションチームとボランティアで、ボランティアの岡さんが韓国語通訳も行った。

ならまち散策の答え合わせや、イントロゲーム、お菓子交換をして1日目は終了した。



交流2日目／11月19日

<午前>

練習

朝食後、ホールに集まり日本のオリジナル曲を韓国参加者に披露した。その後、午後からの成果発表会に向けて各チームで練習を行い、最後に通し練習をして昼食時間とした。



<午後>

成果発表会

バスでユースホステルからミ・ナラに移動し、発表のリハーサルを行った。

リハーサル後、発表を行った。

各チームの発表では、韓国語と日本語のパートで歌い分けや、歌とともに字を書くパフォーマンス、手作りのカーネーションを観客に配り歌とともに降ってもらうなどチームの個性が光る発表であった。

その後、奈良市の音楽指導者氷置晋氏と済州特別自治道の音楽指導者ブ・ヒジョン氏の発表を行い、渡航を含むプログラムが4年ぶりに開催された喜びや、国境を越えた異文化交流を通して学ぶ多様性の大切さを歌詞に込めた日本のオリジナル曲である「color of the ocean」を日本の参加者で発表し、最後に参加者と観客も交えて「let it be」を合唱した。



自由時間

ミ・ナラの中にある金魚ミュージアムの見学など2時間の自由時間とした。

フィナーレ

文化振興課長より挨拶の後、各都市参加者の感想発表を行った。
その後、奈良市からの記念品を濟州の参加者に贈り、記念撮影を行った。
最後に2日間の交流の記録動画を全員で見て全てのプログラムが終了した。

参加者は別れを惜しむように、写真撮影をしたり抱き合ったりしていた。



海外渡航プログラム

渡航先：韓国済州特別自治道

日 程：令和5年8月23日（水）～26日（土）

出席者：参加者7人（引率2人、指導者2人、通訳1人）

1日目

13時頃に関西国際空港を出発し、15時ごろ済州へ到着した。

空港にて済州特別自治道文化政策課 韓氏、日本語通訳 沈氏が横断幕を広げ歓迎を受けた。

また、同一便において東京学芸大学学生6名（済州特別自治道の招待者）も合流した。参加者の両替後、記念撮影して、バスでホテルへ向かった。



ホテルの部屋割りは、韓国参加者と奈良参加者、中国参加者と奈良参加者の同室（2名1室）であった。

17時半から歓迎セレモニーと夕食がグロスターホテルチェジュの宴会場で行われた。主催者である済州特別自治道文化体育対外協力局 オウ事務局長からの挨拶に続いて、日中領事館代表者の挨拶があった。その後参加者代表及び参加者・指導者の紹介が行われた。



夕食後、各都市参加者による音楽公演があり、奈良市は「世界に一つだけの花」を披露した。指導者による音楽公演（奈良市のみ）では、氷置晋氏が「かわらないで」を披露した。



20時から、各グループにメンターとして韓国の指導者が加わり、3日目の成果発表に向けたグループ分け、リーダーの選出や自己紹介を行った。

21時に解散した。



2日目

雨天のため予定が変更になり、9時にホテルを出発し朝天体育館で韓国伝統芸能「サムルノリ」を紹介・体験した。

グループ毎に体験し、ボナ（皿まわし）・ハンサム（旗）・サンモ（帽子）・チャング（両方からたたく太鼓）、チン（ドラ）、ケンガリ（小さいドラ）プク（丸い太鼓）の体験を行った。



午後からはコンテンツコリアラボチェジュに移動し、韓国の伝統音楽を守りながら、K-POPに取り入れたアーティストや現代音楽について学んだ。

琴の演奏家より、日本の琴に似た韓国の伝統楽器であるカヤブン（手で弾く）とコムゴ（バチで弾く）の紹介と演奏があった。

15時から翌日の発表に向け、4つのグループに分かれてそれぞれ活動した。



夕食後はノヒョンスーパーマーケットに移動し、ミュージカル公演を観覧した。360°の映像で音量ともに迫力があつた。



3日目

午前中は、済州特別自治道立美術館で美術展覧会の観覧をした後、コンテンツコリアラボチェジュに移動し、グループ発表に向けてグループごとにそれぞれ活動した。

済州特別自治道文化政策課 日本語通訳 沈氏は、4グループの活動状況を確認しながら、学生へ話しかけたり、必要に応じてアドバイスされていた。



16 半から済州文化芸術会館小劇場へ徒歩移動し、リハーサルの後、成果発表会を行った。
発表曲は、

- 1 班 Let It Go～ありのままで～（アナと雪の女王）
- 2 班 Part of Your World（リトル・マーメイド）
- 3 班 （曲は寧波市参加者の自作曲で、歌詞はそれぞれの国で考えた）
- 4 班 月亮代表我的心（月は私の心）



発表会の後の各都市参加者代表の感想発表で、奈良市の代表者は 3 日間の感想及び感謝の意を日・中・韓の 3ヶ国語で発表した。

指導者の楽曲披露では氷置 晋氏が「let it be」を披露し会場の参加者とともに合唱した。



4日目

午前中は、耽羅王国の発祥の地「三姓穴」を見学。



その後、バスで海岸に移動し海辺を散策した。



昼食後に買い物をして、空港に向かった。18時ごろ関西国際空港に到着し、解散した。



参加者レポート

■ Mさん（高校生）

今回の韓国での交流で、数えきれないほどの思い出をつくることができました。私の舞台発表での一番の思い出は、同じグループの韓国の方に、「歌がとてもよかった」と言ってもらえたことです。グループ活動の時は歌の歌詞をそれぞれの国で考えて、そのあとみんなで歌う練習をしたのですが、練習の間はずっと「声が小さい」と言われていました。リハーサルのときも「全然聞こえない」と言われ、とても焦りがありました。しかし先生やグループの方たちに支えてもらって、本番では大きな声を出して堂々と歌うことができました。グループのみなさんは誰かを責めたり、逆に威張ったりせずにみんなで音楽を楽しもうとしていました。私も、特に特技などはありませんが、グループの一員として頑張れたと思います。短い時間でしたが、一人ひとりの人柄や能力がチームを一つにしたと思います。グループ活動以外でも、積極的にコミュニケーションを図ってくれました。私は、韓国の方が「You can ask me anything」と言ってくれたことがとても印象に残っています。よくある言葉かもしれないけれど、初めての土地でわからないことが多い私にとっては、とても安心できる言葉でした。また、中国の方と一緒に食事するときに細やかな気遣いをしてくれたこともとても印象深いです。おそらくそれぞれにそれぞれの国に対する先入観があったと思います。私は正直に言うと、ありました。ですが、実際に交流してみると、そういう先入観を持たずに、一個人として接するべきなのだと改めて気付かされました。そして、舞台発表後のKさんのスピーチは私の胸に深く刻まれました。「このような恵まれた環境はあまりないと思います」という言葉で、この機会を与えてくださった方たちに感謝するとともに、次奈良にお越しになる際は恩返しをするつもりでおもてなしをしようという気持ちになりました。今回の渡航で海外で何かするのはとても勇気のいることだと実感したので、11月のプログラムでは私たちが支えていけるように頑張ります。最後に、この韓国渡航は間違いなく私の宝物になったし、今後もこのプログラムで出会った人たちと良い影響を及ぼしあいたいと思いました。韓国や中国、奈良のことをより深く知りたいし、今後留学などで海外に行く際にこの経験を活かしたいです。

■Nさん（高校生）

私は韓国渡航前、違う文化に触れあえるというポジティブな気持ちより、コミュニケーションが取れるか不安だというネガティブな気持ちが大きかったことを覚えています。私は韓国語も中国語も喋れず、楽器が弾けるわけでも、歌が歌えるわけでもないのも、とても不安でした。ですが、そのような不安は必要なかったと感じています。初日の初めて済州の学生と出会った時、そのような不安は一掃されました。彼らがしてくれた温かい歓迎は忘れることが出来ません。

私は今回の渡航を通じて学んだことが2つあります。1つ目は音楽の偉大さです。

今回のプログラムのなかでやはり言語の壁や緊張もあり、初日や2日目はなかなかコミュニケーションをとる事が出来ませんでした。最終日には発表会があるにもかかわらず、意見がなかなかまとまらない中、私のグループはいったん休憩をとろうという事になりました。私はスマートフォンを見ていると、ふと流れてきたKPOPの音楽にみんなが反応してくれ、口ずさみ始めました。そこから私たちはみんなが知っている曲をアレンジして歌おうと決めました。話は飛びますが、2日目の夜のことです。ルームメイトの友達の部屋に遊びに行くと、そこには他チームのメンバーもいました。お互い自己紹介はしたもののなかなか話が弾まない時、日本の参加者がYOASOBIの『夜に駆ける』を流した途端、またみんな口ずさみ始め、そこに集ったみんながJPOPを好きであることがわかりました。

私はこの2つの経験を通して、音楽は世界をつなげてくれると確信しました。お互いの言葉がわからなくても一気に場が盛り上がり、みんなを笑顔にさせ、話のきっかけをくれた音楽にとっても感謝しています。

私が学んだことの2つ目は失敗を恐れない事です。先ほど触れた通り、私は渡韓前、コミュニケーション面で大きな不安がありました。最初はルームメイトに話しかけることも躊躇していたのですが、少しでも勇気を出して話してみると共通の趣味があることがわかりました。そこで少し自信をつけた私は、事前に調べておいた韓国語のフレーズを使ってみる事にしました。すると、済州の学生は満面の笑みでほめてくれました。勇気を出した甲斐があり、最終日には別れを惜しむほどの仲のいい友人がたくさんできました。

このように、私は普段奈良には感じないようなことをたくさん感じる事が出来ました。この幸せな気持ちを11月に来るみんなにも感じてもらえるように、出来る準備をしていきたいと思います。最後になりましたがこのように貴重な機会を与えて下さった皆様に感謝しています。

■Kさん（大学生）

「みんながコミュニケーションに積極的な環境」

韓国プログラムを通して、1番印象に残っているのは、誰もコミュニケーションを取ることを諦めていなかったということです。相手の話す言語が分からなくても、簡単な単語を並べてみたり、翻訳アプリを使って会話を試してみたり、全員が前向きに試行錯誤していたのが、少し意外で、嬉しかったことでした。意外だと思った理由は、比較的コミュニケーションを取りづらい人と話すにはいつも以上に傾聴力が必要で、労力がかかることだと思うからです。それでもそれぞれの違いを尊重して、相手を理解しよう、自分の気持ちを理解してもらおうと努力を惜しまないアグレッシブな雰囲気、私自身も背中を押されました。この恵まれた環境で国際交流できる機会を当たり前と思わず、関わる全ての方に感謝しつつ、全力で楽しみ吸収したいと、自然に思いました。

「自己主張の仕方の違い」

本当に楽しく貴重な体験をできたプログラムでしたが、大変なこともありました。グループ発表準備時の意見交換の仕方です。あくまで自分のグループの印象ですが、初めは言語の壁があったように思います。日本人の通訳の方とずっと一緒にいたわけではないので、韓国、中国の学生の方が、通訳さんを通して意見を出しやすい環境でした。日本人は私含め控えめな子が多かったので、圧倒されて初めはあまり意見を出せず任せっきりになる場面が多かったです。しかし、勇気を出して簡単な英単語で提案を試みたところ、すんなり受け入れられ、驚きました。そのとき、本当の壁は言語自体ではなく、アグレッシブさなどコミュニケーション態度の違いだと気づき、自分の殻を多少破ってでも踏み出してみないと分からないことがあると実感しました。

「安心させてくれるルームメイトの存在」

振り返ると、私が4日間安心してプログラムに参加できたのは、確実に私のルームメイトであった韓国の学生であるYさんのおかげでした。いつもそばにいてくれて、言語が分からず不安にならないよう、困っていたら英語で状況説明をしてくれ、どんな時でも諦めず明るくコミュニケーションをとってくれました。自分がこの先の人生で留学生などに関わることがあったら、彼女をお手本にしようと思いました。それくらい安心させてくれたことに心から感謝していますし、ルームメイトがYで本当によかったです。年齢も近く、落ち着いた雰囲気のYさんとは初日から気が合い、プログラム中だけでなく今も連絡をとっています。また会いたいと思う人と出会えたことは、私自身の財産です。

また、Yさん中心に韓国の学生が、毎日部屋に集まってみんなで遊ぼうと誘ってくれました。部屋で夜食を食べながらゲームなどをして遊んだ時間は、プログラムにこそ入っていませんでしたが、参加学生との距離が縮まった、非常に重要な交流機会の一つでした。

渡航先：中国 寧波市

日 程：令和5年12月7日（木）～10日（日）

出席者：参加者7人（引率2人、指導者2人、通訳1人）

1日目

10時頃に関西国際空港を出発し、12時頃上海浦東国際空港着。
空港にて写真撮影後、寧波までバスで移動した。



17時半ごろ宿泊場所の寧波南苑飯店到着し、オリジナルバッグ配布（水筒・天一閣ノート・マスク・予定表が入っていた）された。

ホテルで夕食をとった後、遊覧船で寧波夜景観賞（約50分）し、一日目を終えた。



2日目

ホテルロビー集合後、くじを引いて赤・黄色・青チームに行動班を分けた。

午前中は、天一閣博物館見学し、同館でお菓子作り体験（時間がかかるため、古本修理から変更）をした。天一閣は中国、明代の蔵書家范欽（はんきん）が、建てた書庫で、現在も書庫とともに当時の蔵書が保存されていた。その管理は厳重を極め、建物は池をめぐらして火災に備えていた。

お茶菓子作り体験では「さくら」と「雪の華」の2種類を作成。自由に好きな形を作成している参加者もいた。



午後は1時半頃から湖山芸術館屋外スペースで歓迎セレモニーがあった。寧波市代表者挨拶の後、日韓都市代表者挨拶と指導者紹介があった。（施設内には韓国、日本での交流の動画や写真の展示があった。）



その後の文化公演（湖山芸術館屋外ステージ）では以下の発表・演奏が披露された。

- ・弦楽四重奏「葬花吟」
- ・スペシャルゲストとして Gil Byeong Min（オペラ歌手）の歌披露
- ・奈良市参加者発表（color of the ocean）
伴奏：氷置 晋 氏
- ・伝統演劇・越劇「十八相送」
- ・茶道&琴・箏・ギターの演奏
- ・済州参加者発表
- ・ピアノと琴のアンサンブル
- ・寧波市参加者による合唱（茉莉花／ジャスミンの花）



16 時ごろから同館内で中国伝統文化体験では、茶道・琴・越劇（中国の地方劇）の中から一つ選んで体験した。



17時半から歓迎夕食会歓迎夕食会でおもてなしを受け、19時から寧波国際声楽コンクールの観賞（寧波大劇場）をした。1人につき5曲披露し、3名観賞後、ホテルに移動して2日目を終えた。



3日目

10時から中国伝統楽器（青磁器でできた楽器）体験をした。（音は比較的高め）慈溪青磁甌楽団の方の演奏披露の後、各々演奏してみたい楽器を体験した。伝統楽器だけでなく参加者と奈良市の音楽指導者の氷置晋氏は、ジブリの曲でピアノの連弾や持参の楽器とのセッションを楽しみ、音楽交流を行っていた。

その後、参加できる楽器で参加国の中から数名演奏に参加した。演奏曲は茉莉花（ジャスミンの花）で、奈良市からピアノ・中国琵琶・ギター・クラリネットの4名参加した。（氷置氏がギターの楽譜を編曲）

最後にプログラムの修了証書の授与式を行った。



昼食後は、上林湖越窯博物館と上林湖越州窯遺跡見学した。



夕食前に南塘老街へ移動し、夕食までの1時間自由行動した。各々お土産を買ったり街歩きを楽しんでいた。

夕食後も自由行動で、参加者は南塘老街での街歩きをしていた。

4日目

11時半発のフライトのため、5時半にホテルのロビーに集合し上海浦東国際空港にバスで向かいました。

9時半に上海浦東国際空港に到着し、11時半頃関西国際空港に向けて出発しました。

15時20分に関西国際空港に到着し、人数確認の後解散した。

参加者レポート

■Kさん（高校生）

最初、日本から中国までのフライトが短く、漢字表記なので中国に来たという実感が湧きませんでした。しかし一日目の夜、遊覧船に乗って寧波の街を周った時にビル群がイルミネーションやプロジェクションマッピングなどで美しく華やかに輝いている様を見て、日本ではできないであろう夜の輝きの壮大さに、日本ではない場所に来たんだなと感じました。

二日目からは韓国、中国の参加者と一緒に行動しました。今回の交流会は朝から晩までみっちりとスケジュールが組まれていて、歓迎セレモニーの前にぬるっと他国の参加者と合流することになっていたのですが、仲良くなれるかととても不安でした。そんな不安とは裏腹に、朝一番に行った天一閣では同じグループの中国人の子が引率の先生とは別に細かく説明をしてくれたおかげで、一気に距離を縮めることができました。そしてより深く天一閣の歴史や書物について学ぶことができました。

歓迎セレモニーでは中国の伝統芸術の発表や、日中韓の参加者による発表など鑑賞しました。各国の発表を見て、盛り上がり褒め合うことでチーム外のことも仲良くなることができ有意義な時間になりました。

夜には寧波国際声楽コンクールを鑑賞しプロとしても活動されているような方々の演奏を聞くことができました。私は声楽を学んでいるので、中国で声楽のコンクールを見て勉強できる機会をいただけて本当に嬉しかったです。

三日目は歐楽の楽団の演奏鑑賞と体験・日中韓による合同演奏を行いました。歐楽というものを今回初めて知ったのですが、食器で奏でられる美しいメロディーは力強く心が動かされました。そして楽団の方も交えて演奏した日中韓の合同演奏は練習時間も短く楽譜も難しかったです、とても素晴らしく、出会って2日しか経っていないとは思えない演奏でした。

三泊四日の中で韓国、中国の参加者と過ごした時間は二日間ととても短かったのですが、その中で私は中国の歴史、音楽、食事のマナーなどたくさんを学びました。

その中で感じたのは、国同士の関係がどうであろうと、人と人が互いの文化を尊敬しあい積極的に関わっていけば絶対に仲良くなれるということです。

今、日本と中国の関係はあまり良い状況とは言えません。しかしその状況から勝手な偏見などを持ち、決めつけることは自分の視野を狭める行為だと感じます。視野を広く持ち、文化を理解してリスペクトする。そんな人達が増えていけば、いつかそれが国同士の関係を変化させる力になると思います。

私は今回の交流で韓国や中国の人たちと知り合い、今でも Wechat や Instagram の DM を通じて頻繁に連絡を取り合う友人が沢山できました。「NARA ARTS BRIDGE 」という今回の交流プログラムの名前の通り、その友情で国同士の架け橋になり、未来をより良いものにできるようこれから活動していきたいと強く感じます。

■K さん（大学生）

寧波市で開催された東アジア文化交流に参加して、自分に起きた変化は3つある。

1つ目は、外国人の人を一人の人間としてとらえる意識がより一層深まったことである。春から続けている観光地での案内のアルバイトにおいて、行く前と行った後で、業務内容は変わらないのに、行った後のほうが圧倒的に楽しいと感じられるのである。行く前は、大勢いる外国人観光客を1つのくくりとして考えていたが、行った後で、一人ひとりがどんな人でどこから来たのか興味を持つようになり、実際に話かけることや、あるいは話しかけられて会話が弾むことも多くなった。このような意識に変わったのは、中国人の参加者、韓国人の参加者と距離を縮めたことや、現地の人から、言葉は通じなくても一生懸命理解をしようとしてくれたことがきっかけであると思う。

2つ目は、日本や奈良の文化、そして中国と韓国などの東洋の文化をもっと知りたいという気持ちになったことである。寧波市の交流プログラムは、中国の文化の体験や見学が多く、中でもお琴の演奏体験では、3か国のお琴との違いを細かく説明してもらったため、それぞれの共通点と相違点を知ること、距離感がより一層近づいたような感覚や違いを知る楽しさも感じる事ができた。この経験から、実際に東洋に関連した美術館に行って鑑賞する機会が増えた。

3つ目には、3か国の歴史と現状について考えたいという気持ちになった。日本人として訪中していると、情勢上、少し冷たい視線を感じる事があった。プログラムの参加者からそのような視線も感覚も全くなかったが、少し外を出て、参加者ではない現地住民の人から感じる事があった。お互いの理解を深めるために、私にとってその国や自分の国の好きなどころだけではなく、それぞれが抱える事情を知ることが、本当の理解につながるのではないかと思った。

そして最後に市民参加者として、このプログラムをぜひ残してほしいという思いが強くある。なぜなら外国人という1つのフィルターとしてとらえて、無意識に距離を作っていた感覚から、フィルターではなく、1人の人間として関わられるようになったのである。これからの3か国の友好的な交流を促すためにも必要な感覚であり、その意識に変えることができるこの取組は若い奈良市民の大きな希望やきっかけになると考える。

■W さん（大学生）

寧波では現地の学生や韓国から来た学生たちと一緒に中国の文化体験をしました。歓迎セレモニーで寧波の学生が歌った茉莉花は特に印象深く残っています。私達はその歌を韓国の学生とともに手を叩き楽しんで聴いていましたが、曲の最中で「一緒に歌おう！」と寧波の学生に手を引かれ、ステージに立ち一緒に歌ったという思い出があります。茉莉花は中国民謡だということで、寧波の学生の中には手で中国舞踊の動きをしている人もいました。歌の発表のあとは、その学生に直接手の動きを教えてもらうなどして交流を深められました。また、その会場で食べた芝麻汤圆という胡麻が入ったお餅がとても美味しく、その味にどっぷりハマってしまい、次の日の朝ごはんでもそれを頬張りました。その他にも寧波で食べたご飯はどれも口に合い美味しかったです。初めて見るものも多かったです。例えばカエルが煮込まれた料理や、刻まれた唐辛子の中に紛れ込んだ肉料理など、はじめは取るのを躊躇いもしましたが、いざ食べてみると美味しいものばかりでした。見た目にとらわれず食べることの重要さに気づきましたし、何よりも食文化の違いを「見たことがない」で終わらせず食べてみてそれ自体を楽しむことが大切だと思いました。食事以外にも、寧波市と済州の学生との交流の中で気づいたことがありました。それは、友達になるのに国は関係ないということです。中国と日本、そして韓国は比較的近い距離感にありますが、近いようで遠い感覚を私は持っていました。具体的には、言葉が通じない不安や、文化の違いから自分は受け入れてもらえないのではないかという緊張です。私達の背景には少し難しい情勢や体制が絡んでいて、それが理由の一つかもしれません。ですが、今回の交流を通じて仲を深めるのには国籍も言語も関係ないということに改めて気付かされました。特に言語や文化は理解に時間がかかると思います。ですがそれを受け入れるために努力することは互いに意味のある行動であると思いますし、その過程で相手の文化をより好きになるきっかけにもなるはずです。実際に私は寧波で、中国舞踊の魅力を知り更に知りたい、私もやってみたいと思いました。そして中国語や韓国語を勉強しコミュニケーションが更に円滑になるよう頑張りたいと思いました。ここで知り合った日中韓の友人達とは今も時々連絡を取り合っていて、私は韓国人の友達に韓国語を教えてもらっています。一度きりの交流ではなく、この時代だからこそ継続した交流ができるのはとても嬉しいです。今回私は寧波市に行きましたが次は済州島に行き、韓国のまだ知らない文化を知りたいです。

報告会

日時：令和6年1月13日（土） 14：00～15：30

場所：奈良市中部公民館 視聴覚室

講師：氷置 晋 氏（奈良ミュージックデザイン）

出席者：NARA ARTS BRIDGE for Youth 16人（1人欠席）

内容

奈良市受入プログラムの記録映像を見た後、感想シートで今年度プログラムを振り返った。その後、済州特別自治道と寧波市に渡航した参加者による感想発表と記録動画を見た。振り返りの最後に、今年度プログラムを通じて何を学びどのように活かしていくのかを画用紙に書いて一人ずつ発表した。

プログラムを通して参加者は、多様性や何事も挑戦してみる勇気を得たと語っていた。

学んだこと	将来にどう生かすか
人は人。国籍は関係ない	1人の人として教養のある、思いやりのある人間になる！
失敗を恐れないこと	普段から話しかける勇気を持つ。 チャレンジ精神を忘れない。
言葉か通じなくても人は簡単につながる	勇気を出す
多様性の大切さ	留学先でも積極的に行動する
心の扉を開いて積極的にコミュニケーションをとること	中国・韓国だけでなくほかの国の人たちとも交流し、世界が平和になるように努力していきたい
関わりたいという気持ちが大事	外国の方を案内したい
音楽に国境はない！とりあえず話してみる！	もっと積極的に関わっていきたい
ワクワクすることにはとりあえず挑戦してみる	これから自信がなくても挑戦してみようと一歩踏み出す勇気になった
相手を知るにはたくさん話しかけることが特に必要	より円滑なコミュニケーションのために中国語と韓国語の勉強を頑張りたい
「おもてなし」「真心」は国境を超える	異なる国籍を持つ子供たちや、外国の方と学校や社会で交流する際に仲を深められるように真心を持って接する
前向きな態度、姿勢でコミュニケーションを諦めない！	この先の人生で様々なバックグラウンドを持った人と出会った時、自分や相手がわからないことがあってもコミュニケーションを辞めずに一緒に頑張る

令和5年度 成果と課題について

<成果>

- 本プログラムは日中韓の文化の力による平和構築をめざした「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を契機として始まった。参加者が直接中国や韓国の学生と触れ合うことで、それまで抱いていた先入観や偏見を見直すきっかけとなったことが見て取ることができた。
- 音楽は人々をつなげ、共感を生み出す力を持っている。東アジア青少年国際交流において音楽を活用することで、参加者同士の交流が深まり、国際社会においても良好な関係が築かれることを期待できる。
- 奈良での事前ワークショップで、箏の演奏体験を取り入れたことにより、奈良の参加者が奈良の文化や歴史に興味を持ち、その文化を韓国の学生に伝えることができた。
- 音楽は個人の感情やアイデンティティを表現する手段である。参加者は自分自身を音楽を通じて表現し、自信やチャレンジ精神を養った。
- 中韓渡航プログラムにおいては、寧波市並びに濟州特別自治道、それぞれの多大な協力のもと、安全に行程を終えることができ、参加者にとって満足度の高いものとなった。中国や韓国への渡航は難しくない時代ではあるが、現地で同世代の人と親睦を深める機会は留学などの機会がない限り、多くない。本プログラムは海外への関心はあるが渡航経験がない人に対して、大変有意義なものだと考える。

<課題>

- 奈良市受入プログラムに、寧波市が参加できなかったため来年度は事前調整を綿密に行う必要がある。
- 11月の週末と重なり観光シーズンであったため費用が高く、部屋数の確保やその他手配が困難であった。より多くの方が参加できるように、来年度は時期をずらして行う必要がある。